日本看護歴史學會 會報

日本看護歴史学会
第40号
2003年7月8日

第十七回日本看護歴史学会大会開催

日本の看護戦後史を追求する

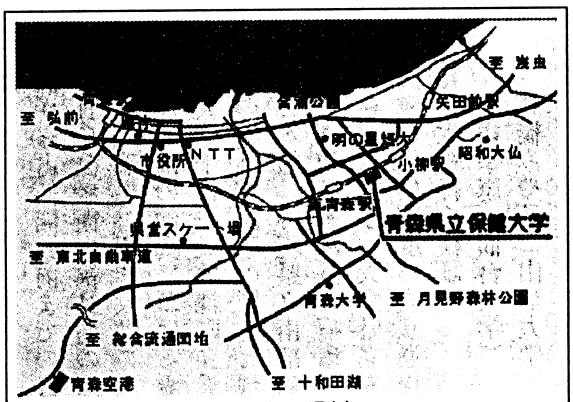
ライダー島崎玲子

看護歴史に興味を持ったのは一九六〇年代コロンビア大学ティーチャーズカレッジにおいて「カリキュラムと教授法」という科目を取った時である。これを機会に、私は日本の看護教育のカリキュラムの変遷を調べてみようと思い立った。ワシントンの国立図書館やコロンビア大学の図書館、ロックフェラーArchivesには占領軍によって書かれた議事録や第二次史料が多く眠っていた。史料を発掘した時の喜びや楽しさが、博士論文のテーマに「看護の戦後史」を選ぶ動機となった。

コロンビア大学のTeedmann教授による「日本歴史・江戸末期から日本国憲法公布まで」という日本歴史の科目は、異邦人から見た日本の歴史であり新鮮であった。明治時代の軍国主義とナショナリズムの台頭、それらの社会現象と看護の出来事を重ねて分析すると歴史に興味が湧いてきた。明治時代の政治、社会、教育の変革、看護教育が米国のリンダ　リチャードをはじめとする米国の看護婦の指導者によって発達したことや、第二次世界大戦後の看護教育の発展が、米国の看護教育制度や米国人の看護婦の影響だったことが判明した。

歴史の定義は今まで多くの人々が論議をしてきたが、最も一般的なものは人間の好奇心を満たすと言うことであった。またLewis Namierは、歴史学者が関心を持っているのは過去に起こった人間の行動で、歴史そのものは行動を起こしている人間であり、それに伴う人間の具体的な思考や人間の感情にも関わっていると説明している。私は日本の看護の戦後史を追求していく中で看護政策の決断過程で、この改革に参画したサムス准将、オルト少佐、オルソン看護婦の医療や看護に関する理念や考え方が、また彼らの人間性が改革活動の中に強く反映していることを学んだ。戦前は入院した患者の看護は家族の役割であった。占領軍の看護婦は、患者のケアは看護婦ですること、患者中心の看護という考え、看護とは「科学、芸術、専門職である」という理念を日本の看護婦達に執拗なまでに指導した。当時の日本の看護婦もまた彼らの指導に答えるかのように努力して、現在の看護の基礎を作った。

これらの先人の残した考え方は、現在の目まぐるしい医療の現場で生かされているだろうか。とかく科学的な看護が強調され、技術や人間性のある看護が忘れられているのではないか。今回の学会で、ぜひ考えて欲しいと思うのである。



■青森市まで（平成14年12月1日現在）
◎JR
東京駅から青森駅まで約4時間
（東北新幹線「はやて」及び特急「スーパー白鳥」、「白鳥」、「つがる」）
◎飛行機
札幌便、東京便、名古屋便、大阪便、広島便
福岡便

■青森市内
◎青森駅から約7km
・青森市営バス（戸山団地・沢山線）
県立保健大学前バス停まで‥約20分
（バス停から徒歩約1分）
・車（タクシー）で‥約15分
◎JR東青森駅から徒歩で‥約10分（約1km）
◎JR小柳駅から徒歩で‥約10分（約1km）

青森県立保健大学
〒030-8505　青森市大字浜館字間瀬58－1
TEL　017-765-2000（代表）

日本看護歴史学会第十七回大会

つぎの要領で開催します。

大会テーマ　看取りの文化　―古代から現代へ―

日時　平成一五年九月五日（金）　十二時～十七時
九月六日（土）　九時～十六時四十分

会場　青森県立保健大学
青森市浜館字間瀬五十八―一
大会参加費　五千円　（当日　六千円）

プログラム

一　特別講演1　講師　松木明知
「八甲田雪中行軍事件・特に第五連隊と第三一連隊による捜索活動について」

二　特別講演2　講師　新村拓
「看取りの文化とその歴史　古代から現在の介護の歴史」

三　パネルディスカッション
「占領軍GHQ公衆衛生福祉局の医療看護政策と現在への影響」
ライダー島崎玲子（青森県立保健大学）
川島みどり（日本赤十字看護大学）
平尾真智子（東京慈恵会医科大学医学部看護学科）
木村哲也（神奈川大学大学院）

四　研究発表

【口演】

①創設から占領開始前までの日本・アメリカ・国際赤十字の歴史的推移
―GHQ公衆衛生福祉局の連携組織となった要因を探る―
城丸瑞恵（昭和大学）

②本土復帰前の沖縄における看護関係法と本土法との比較
大嶺千枝子（沖縄県立看護大学）

③沖縄の男性看護職の歴史と現況
仲本勉（沖縄県立南部病院）

④瘡神社周辺の水治浴と痘瘡
桧原登志子（大分県立看護科学大学）

⑤介護職の資格制度の成立過程とそれに伴う介護職と看護職の業務上の重複発生経緯の検証
庄司幸恵（仙台大学）
高橋みや子（山形大学）

⑥兵庫県における看護婦養成の歴史的研究
山崎雅代（川崎医療福祉大学）

⑦栃木県における高等学校衛生看護科創設から閉科に至る経緯の検証
齋藤千鶴（山形大学）

⑧慈善事業家から見た京都看病婦学校と同志社病院における看護の状況
―石井十次日誌明治25年を中心に―
徳川早知子（滋賀医科大学）

⑨看護学生組織の変遷とこれから
坪田康祐（慶應義塾大学）
多田恵美子（東海大学）

【示説】

①日本の看護歴史関連史料の専門的基盤整備のための調査結果
―看護婦等学校養成所を対象にして―
福本恵（京都府立医科大学）

②京都看護婦学校の教育施設について
―建設計画から完成までの経緯に焦点を当てて―
竹中京子（大阪府立看護大学）

③被占領下における看護改革政策の青森県への波及

木村恵美子（青森県立保健大学）

④William Merrell Vories の生涯
—メンソレータム販売事業と近江療養院設立—
小倉之子（龍谷大学大学院）

⑤被占領期の保助看法一部改正に医療労働組合が果たした役割
近藤誓子（国際医療福祉大学）

⑥病床の変遷とその経緯—明治期から現在の看護教科書に焦点を当てて—
青山和子（西南女学院大学）

五　分科会

・「日本の看護に関する法律の変遷」　田中幸子

・「史料の力　—地域看護学概論に史料教材を用いて」　山本春江

・「診療報酬の推移と看護の評価　—県内医療機関（中小規模病院）における看護の変遷について—」　齋藤クニ

・「男性の看護参画：看護士から看護師へ　—専門職看護への道—」
瀧川薫、谷岡哲也、濱端賢次

六　写真展

七　第十八回大会長　挨拶　岡崎寿美子

懇親会

第一日目終了後、行います。

懇親会費　三千円

◆参加申し込み、お問い合わせ先
事務局：青森県立保健大学内　福井・秋庭
TEL　017—765—2054

◆宿泊・観光のお申込み・お問い合わせ先
JTB青森支店
TEL　017—722—4434

日本看護系学会協議会の一員になりました

代表幹事　山本捷子

平成十五年四月八日に本会は日本看護系学会協議会の入会が承認され、五月三十一日同会の総会に出席しました。同会は日本学術会議に看護系学会がひとつの部門をもつために、日本看護科学学会の人たちを中心に平成十三年にスタートしたものです。現在会員学会は二十七学会です。

同会が日本学術会議に存在する意義のひとつに文部科学省の研究助成金（科研費）を受けられやすいことですが、看護が実践の学問として社会的な認知を受けるためにも重要なことだからです。

看護歴史学会は小さな学会ですが、看護学研究のひとつのジャンルとして存在していることに大きな意義があります。すべての物事に始まりがあり、その変遷には数多くのいきさつと人々関わっています。時代背景なしには物事は動きません。看護の本質を極め、看護のあり方の確かな将来を見据えるためにも、地道な看護歴史の探求と研究は欠かせないのです。

その為にも看護のさまざまな分野について関連領域と結びつけながら、歴史研究を続けていきましょう。

「歴史への私の想い」

山崎医療福祉大学 保健看護学科　山崎　雅代

旧カリで、「看護歴史」を教えていた頃、私は学生に「貴方達に看護歴史を教えるのは、歴史学者にするためではない。現在起こっている問題を解決する方策のヒントを先達の実践から学ぶためである」と言ってきた。私が岐阜大学の大学院の時お世話になった高島進先生は「学ぶための歴史は単なる過去ではなく、未来への実践的な関心から選択された過去なのである」とその著書「社会福祉の歴史」の中で言っておられる。歴史の講義はどの学科でもカリキュラムから削減され、歴史認識の低い実践者達を育てている。17年以上前、私と本会の前代表幹事の亀山さんが京都で神戸で、本学会の構想を熱く語り合った時も、歴史への想いは同じであった。高島先生とお話していても歴史への想いに共通点を感じる。専門分野が異なっても歴史を研究する人との間に壁はない。本学会の会員がお互いに深い繋がりを感ずるのも歴史のおかげかもしれない。

American Association for the History of Nursing の会員として

第17回の日本看護歴史学会大会長のライダー島崎先生のご紹介で学会員となった。2000年にPhiladelphia のVillanova University で開かれた第17回学会に初めて参加をし、島崎先生発表のNursing Reorganization in Occupied Japan: Implementation of Nursing Policy. 1945-1951 を拝聴し、大変嬉しく思い、このような機会に恵まれたことを感謝した。翌年、University of Virginia で開催された時は、勇気を持ってPoster でHistory of Nursing Education in U.S. Occupied Okinawa 1945-1972 を、国外で初めて発表した。今年はUniversity of Wisconsin で開催されるが、発表を予定している。沖縄の会員は現在２人である。（仲里幸子）

博愛社の創始者、佐野常民の足跡と西南戦争における看護

九州看護福祉大学　看護福祉学部　看護学科
山　邉　素　子

町興しブームのためか熊本県内には日本赤十字社発祥の地としての碑が乱立している。看護の評価が高まる現在、訪問者は少なくない。日本最後の内乱、西南戦争は戦闘よりも衛生環境の悪化によるペストの流行でも多数の死者を出した。田原坂周辺の寺院は病院としても機能していたが、その場所も定かでない箇所がある。看護だけでなく当時の医療を評価するためにも地道なフィールドワークと資料とのにらめっこが続いている。

会費納入のお願い

二〇〇三年度の会費（四千円）を同封の振込み用紙で納入して下さい。本会は、皆様からの会費収入で運営しております。ご協力をお願いします。

新入会員紹介（敬称略）

・緑川誠子（02-015）
明電舎本社事務所
・佐々木秀美（02-016）
呉大学看護学部
・木村恵美子（02-018）
・近藤誓子（02-019）
国際医療福祉大学
・安富雅恵（02-020）
・仲本　勉（02-021）
沖縄県立南部病院
・斉藤千鶴（02022）
山形県置賜保健所
・小倉之子（03001）
・長友みゆき（03002）
宮崎医科大学医学部看護学科
・坪田康祐（03003）
慶應義塾大学看護医療学部
・額賀せつ子（03004）
茨城キリスト教大学大学院

編集後記

「第十七回大会」が、青森で開かれることになりました。日本の看護の原点とその変遷を追求したい。というライダー・島崎・玲子さんの熱い想いは、昨年の大会でも語られ、会員の方々には楽しみにしておられることでしょう。この会報は大会開催要項に多くの紙面をさきましたが、同様にライダーさんの日本の看護の戦後史に対する考えや仲里幸子さんの米看護歴史学会のこと、昨年発表できなかった山邉素子さんの現在の様子、代表幹事のお知らせなど意外に良い仕上がりだと思います。（雅）

日本看護歴史学会会報第四〇号
企画・編集責任者
山崎雅代
藤村龍子
印刷・発送責任者
田中幸子
大石杉乃

事務局
〒二二八―〇八二九
神奈川県相模原市北里二―一―一
北里大学看護学部
田中　幸子
TEL＆FAX　〇四二―七七八―九八二六